

JSS 国際情勢レポート

株式会社 ジェイ・エス・エス

コロナ禍で一層の増加が危惧されるヘイトクライム (米国：犯罪)

米FBIが11月16日に公表した統計によると、同国では、2019年のヘイトクライム（人種、宗教などの偏見や憎悪に基づく犯罪）の認知件数が前年比2.7%増の7,314件に上り、過去10年間で最多となった。

罪種別では傷害、器物損壊、脅迫などが多発しており、発生場所では特に住居、路上、教育機関が多数報告された。

例年はアジア系に対するヘイトクライムの認知件数は比較的少ないものの、今年は新型コロナウイルス感染症（COVID-19）の爆発的な流行に伴い、アジア系を標的とする差別・ヘイトクライム被害が全米各地で続発している。

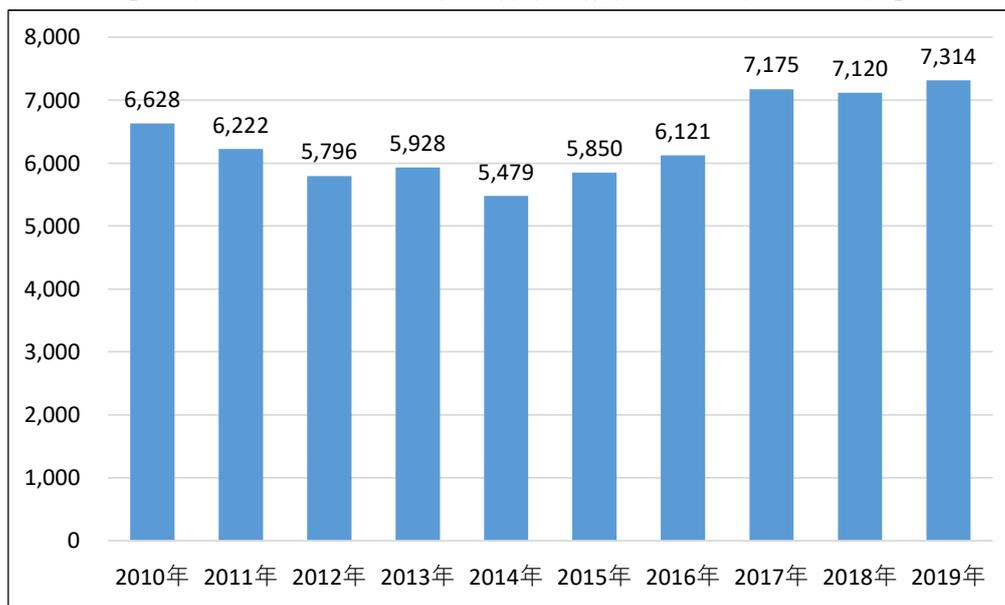
1. トランプ政権発足の2017年以降は7,000件台で推移

米連邦捜査局（FBI）の定義によれば、ヘイトクライムとは、人種、宗教、民族、性的指向、性別、身体障害等、特定のカテゴリーに属する人々に対する偏見を動機とする犯罪を指す。

FBIが11月16日に公表した2019年版ヘイトクライム（憎悪犯罪）統計によると、全米のヘイトクライム認知件数は前年比2.7%増の7,314件で、次頁の図のとおり、過去10年間（2010年～2019年）で最多を記録した。

オバマ政権（2009年1月20日発足）の2010年から2016年までは5,000件台～6,000件台であったが、トランプ政権が発足した2017年以降は7,000件台で推移している。

[全米のヘイトクライム認知件数の推移 (2010年～2019年)]



※2019年FBI犯罪統計を基に作成 (以下同)

州別の認知件数は西部・カリフォルニア州が1,015件と最多で、東部・ニューヨーク州が611件、西部・ワシントン州が542件と続いている。

[ヘイトクライム認知件数の多い5州 (2019年)]

	州	報告件数	在留邦人数
1	カリフォルニア州	1,015件	91,094人
2	ニューヨーク州	611件	50,709人
3	ワシントン州	542件	15,936人
4	ニュージャージー州	472件	18,386人
5	テキサス州	456件	10,389人

一方、認知件数が少ない州は次表のとおりであり、0件はアラバマ州のみであった。

[ヘイトクライム認知件数の少ない5州 (2019年)]

	州	報告件数	在留邦人数
1	アラバマ州	0件	2,505人
2	ワイオミング州	5件	173人
3	アーカンソー州	9件	863人
4	アイオワ州	10件	1,274人
5	アラスカ州	11件	728人

全体 (7,314件) のうち、犯行動機の55.8%を人種・民族、21.4%を宗教、16.8%を性的指向、2.8%を性自認 (ジェンダー・アイデンティティ)、2.2%を身体障害、1.0%を性別が占めていた。

2015年～2019年に発生したヘイトクライムの要因別認知件数と推移は次表のとおりである。なお、要因別件数や合計の事件数、比率には、複数の要因に基づくケース（2019年は211件）は含まれていない。

[ヘイトクライムの要因別認知件数（2015年～2019年）]

	2015年	2016年	2017年	2018年	2019年	比率
人種	3,310件	3,489件	4,131件	4,047件	3,963件	55.8%
宗教	1,244件	1,273件	1,564件	1,419件	1,521件	21.4%
性的指向	1,053件	1,076件	1,130件	1,196件	1,195件	16.8%
性自認	114件	124件	119件	168件	198件	2.8%
身体障害	74件	70件	116件	159件	157件	2.2%
性別	23件	31件	46件	47件	69件	1.0%
事件数	5,818件	6,063件	7,106件	7,036件	7,103件	100.0%

人種については「反アラブ系」が前年比15.9%増の95件、「反ヒスパニック・ラテンアメリカ系」が同8.7%増の527件、「反アジア系」が同6.8%増の158件であった。

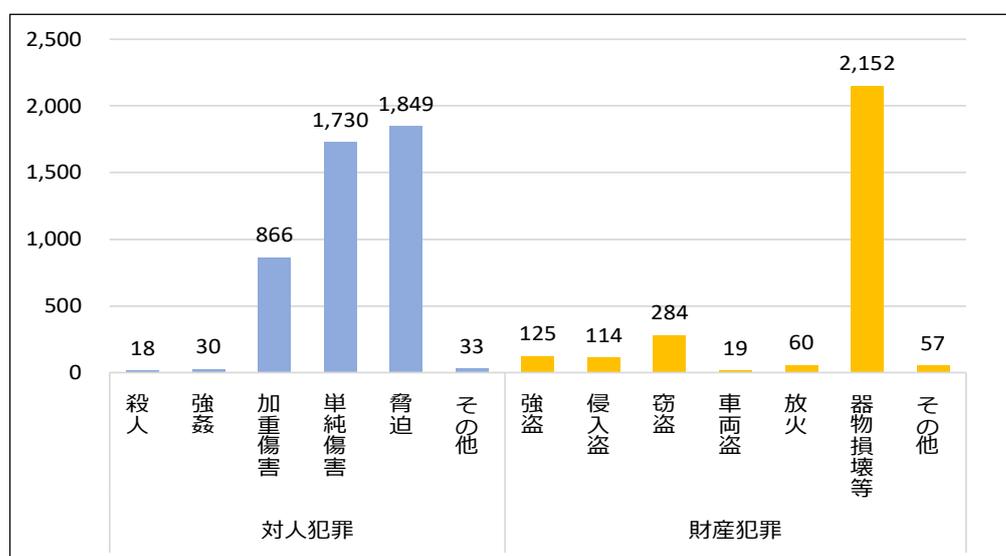
宗教については、「反ユダヤ教徒」が前年比14.1%増の953件で全体（1,521件）の60%以上を占めた一方、「反イスラム教徒」は同6.4%減の176件と減少傾向を示した。

2. 罪種別では傷害、発生場所では住居が最多

罪種別のヘイトクライム認知件数は次図のとおり、対人犯罪のうち傷害の2,596件（単純傷害と加重傷害の合計）が最多を占め、次いで脅迫が1,849件であった。また、財産犯罪では、器物損壊等が2,152件と圧倒的に多かった。

憎悪殺人では、昨年8月3日にテキサス州エルパソで反移民感情を持った男（21歳）が半自動小銃を乱射してメキシコ人8人を含む23人を殺害、20人以上を負傷させ、同国の近代史上、最も多くのラテン系市民が犠牲になったとされる。

[ヘイトクライム罪種別の認知件数（2019年）]



発生場所別では、次表のとおり住居が1,800件で最も多く、次いで路上（1,329件）や小中学校・大学等の教育機関（計653件）が多くなっている。

[ヘイトクライム発生場所別の認知件数（2019年）]

	発生場所	認知件数
1	住居（周辺含む）	1,800件
2	路上	1,329件
3	教育機関（小中学校）	458件
4	駐車場、乗降場	341件
5	宗教施設	322件
6	レストラン	214件
7	公園	196件
8	教育機関（大学）	195件
9	商業施設	161件
10	政府関連・公共施設	132件

※「その他・不明（822件）」を除く

暴力的なヘイトクライムの被害に遭うリスクを低減するためにも、人通りの少ない場所、裏通り、公園などには立ち入らないほか、電車やバスなどの大衆的な交通機関は夜間の利用を避けることが重要である。

3. COVID-19関連の日系人・在留邦人被害事例

例年、アジア系人種への偏見などに起因するヘイトクライム認知件数は比較的少ないものの、今年は新型コロナウイルス感染症（COVID-19）のパンデミックに伴い、全米各地でアジア系の米国人・外国人を標的としたヘイトクライム被害が相次いで確認されている。

米国で感染が拡大し始めた3月以降の日系米国人・在留邦人の差別・ヘイトクライム被害事例は次のとおりで、いずれもいわれのない偏見に基づくものである。

[2020年]

- 3月xx日：（カリフォルニア州）未明、ロサンゼルス市のリトル・トーキョーで邦人女性（78歳）が通りすがりの男に「中国人」、「コロナ」などと罵られた。
- 3月xx日：（ニューヨーク州）地下鉄駅で留学中の邦人女性が見知らぬ女に突然唾をかけられた。
- 3月17日：（ニューヨーク州）マスクを着用した邦人女性が薬局に入店した際、中年の男に「武漢」と呼ばれた。女性がこの男をスマホで撮影したところ、男に追いかけられたため、女性は従業員にエスコートしてもらい店を出た。
- 4月 7日：（ルイジアナ州）午後6時40分頃、ニューオーリンズ市のトゥレーン・メディカルセンター付近で、アジア系の2人組が拳銃を所持した男に「お前達は中国人か日本人か？そうであれば、殺す」などと脅されたが、2人が「病院に勤務している。人々を助けに来た」と伝えたところ、男

は「そうか、救いに来てくれたのだな」と言って去った。

- 6月10日：(カリフォルニア州) トーランス市内の公園で、アジア系女性や日系米国人の男性とその息子が、見知らぬ女に「米国から出ていけ」などと罵られた。
- 6月16日：(カリフォルニア州) 未明、トーランス市内の日本の調理器具などを販売する店が「お前達に出て行って欲しい。日本へ帰れ。言うとおりにしないなら店を爆破する。お前達が住んでいる所も知っている」などと書かれた紙を貼られた。
- 7月 4日：(カリフォルニア州) タマルpais山付近で日系米国人の家族がハイキングをしていた際、白人の女に「あなた達はこの国には居られない。あなた達は法を犯している」などと繰り返し言われた。
- 7月13日：(カリフォルニア州) 午前10時15分頃、トーランス市で日本食レストランが白人の男に投石され、窓ガラス2枚を割られた。翌14日、同レストランのアジア系マネージャーに対して、同じ男が「お前は日本人か？日本がCOVID-19を拡散した。9.11も日本人が引き起こした」などと叫びながら刃物を突きつけてきた。男はその場で駆けつけた警察官に逮捕された。
- 9月27日：(ニューヨーク州) 午後7時30分頃、ハーレム地区の地下鉄駅構内で邦人ジャズピアニスト(40歳)が若い男女8人に「中国人」などと罵られ、激しい暴行を加えられて右鎖骨骨折や全身打撲等の重傷を負った。

カリフォルニア州立大学サンバーナーディーノ校が11月16日に公表した報告書によると、アジア系に対するヘイトクライムの認知件数は3月と4月にピークに達し、ニューヨーク、ロサンゼルス、サンフランシスコ、サンノゼ、フィラデルフィアなどの主要都市では、例年を大幅に上回る件数の急増が確認されている。

COVID-19関連のアジア系への差別・ヘイトクライムの事例は5月以降も多数報告されている(JSSウェブサイト「新型コロナウイルス感染症・特集ページ※」参照)。

※ URL：<https://www.jss-ltd.co.jp/rmc/2541/2691>

12月9日(水)時点における米国内のCOVID-19感染者数は1,516万4,885人、死者数は28万6,237人に上り(ジョンズ・ホプキンス大学集計)、感染者数・死者数共に世界で突出している。パンデミックが長期化する中、人々が不満やストレスを高め、他者に対して攻撃的になりやすい状況が続いているので、引き続き被害予防のための諸注意(注)の励行をお勧めする。

万一、差別的な言動を受けた場合、言い返したり、携帯電話などで相手を撮影したりすると相手が余計に興奮して暴力的になる場合が多いので、全く相手にせず、毅然とした態度で足早にその場から離れた方がよい。

(注)：具体策は2月18日付けJSS国際情勢レポート「COVID-19感染拡大でアジア系への差別が多発」参照。

以上

本レポート内容の全部または一部の転送・転載・第三者への提供を厳禁します。